

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。3日目1番目の質問になります。きのうまで2日間の一般質問で8の方が終わったわけですが、本当に私も議員としていろいろな思いを持ってここに立たせていただいておりますが、一般質問というのは自分にとっても、市民の代表として選ばれて来られた議員さんたちの質問を聞くことが本当に私にとってはいろいろな面で勉強になります。いろんな価値観とか意識の中、違いとか、本当に勉強になるところです。

きのう男女共同参画とかのことで私とちょっと意見が違うところで質問もされておりましたが、それはちょうどよかったと思います。子育て支援という私がきょう上げている中で、ちょっと言わせていただきたいなというふうにも思っていますし、本当に今世の中が、何回も出ておりますが、高齢者の所在不明者がたくさんいらっしゃる、また、年間に3万人以上の方が行き倒れておられる、身元がわからない人とか、本当に児童虐待のこと、うつ病の増加、年間に3万人を超す自殺者、不登校——学校に行けない子どもたちがふえていく、非行に走る子どもたち、振り込め詐欺ですね、そういう社会状況、いろんな問題が上げられていますが、じゃあ私たちはどうしたらいいだろうかということで、今皆さん、私もここに立っているわけですが、私はこの4年間過ぎまして、本当にいろんな意見が交わされていますが、この武雄市4年間、いろいろと問題も上がってきました。初めて私も数字として見せていただきましたが、きのうの武雄市の地方債残高の推移ということで、408億円あった借金が326億円、82億円の減、こういうのを聞くと、自分も家庭をあずかる者として一生懸命家庭をやりくりする、市長も本当に市民のことを思ってやりくりをさせていただいているところ、4年間でこういう数字になったということは本当にありがたいことだなというふうに思っています。

また、いろいろな事業で、きょうもみんなのバスというところで上げさせていただきますが、みんなのバス、そして、武雄市の長寿園とか日輪荘とかありますが、山内町にも今回老人福祉センターさざんか荘も準備していただきました。あと、子どもたちが安心して育つように総合子どもセンターもつくっていただきました。

私は20年前にUターンして山内町に帰ってきて、やはり本当に子育てに悩んで、4人の子どもを下手ながらに失敗だらけて育ててきましたが、私はこちらに帰ってきて、武雄市の文化会館にある武雄子ども劇場に御縁がありました。これは今25年間活動が続いておりますが、そのときの行政の方の考えで文化会館が開設されて、子どもたちの文化はこの子ども劇場さんということで、文化会館の中で活動をさせていただくような支援をさせていただきました。以来25年間、最初は青年団と一緒に活動しております。あそこの中で部屋とかそういうことに困らず活動を続けてくることができました。

最初は700人以上の会員さんで始まって、今は本当に多様化の時代で、いろいろな子育ての価値観もありまして、会員が100人ちょっとになりました。しかし、今も若いお母さんた

ちが子どもを連れてそこで活動をしています。それは、芸術、生の舞台に触れながら、みんなで準備をして計画をして運営しているわけです。地域の方にも協賛金とかお願いしたりして、子どもの育つ環境を理解してもらって支えていただいております。そこで私も活動をしてきまして、本当に文化会館が四季折々移り、庭園のきれいさ、環境のよさ、すばらしいところだなというふうにも思います。武雄市は本当にいいなというふうにも思っております。この4年間、市長はいろんなことに市民の方がチャレンジできるようなチャンスをたくさん与えていただいたと思います。子育て支援でもそうだったと思います。

そんな中、本当に一致団結してやろうというとき、武雄市がよくなっていくようにみんなで頑張ろうというときに、ずっと市民病院の問題とかを引きずっておりますが、どうかここまで来たら、今この2日間聞いてもわかりますように、財政が大変厳しい中、一生懸命引っ張っていただいております、私たちの市長は。だから、そういうことも含めて、一人一人がどこで自分たちも頑張るのかという協力体制、そういう気持ちが必要じゃないかというふうにも思います。

きょうは、私はそんな中、子育て支援についてという項目と、安心・安全の地域づくりについて、そして、3番目は教育施設について質問をさせていただきます。

いろいろな手だてがあっている中、子どもの虐待が取り上げられております。親としては一番悲しいことです。子どもが一番可愛い時期に、子どもも痛い目に遭って、お母さんたちも本当に子育てに悩んで、不安定な社会状況の影響も大だと思っておりますが、そういう中、子育てに苦しんでいる人たちがいるということは、何とか解決しないといけないんじゃないかなというふうにも思っておりますが、今回、いろいろ聞き取りとかたくさん市民の方に話を聞いてみました。武雄市も次世代育成支援行動計画がきっちりと5年先を見据えてでき上がっております。

そういう中、質問に入りたいと思いますが、まず、1番目の児童虐待というところについて、武雄市ではどういう状況にあるかをお聞かせしていただきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

おはようございます。平成21年度、児童虐待の件数が武雄市では3件となっております。また、今年度、市民からの通報で1件ございます。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に虐待とかこういう家庭内のこととかはなかなか見えにくくて、対処するのも大変じゃないかと思うんですが、この間新聞に載っていた記事を見れば、児童虐待防止法が施行さ

れて10年になるんですが、やはり幼い子どもたちが本当に悲劇的な痛みを遭っているという、それが絶たないという状況なんですね。

1990年には児童相談所に相談、対応した件数が1万件を超したというふうに載っています。2001年度に2万件、2004年度に3万件、2007年度に4万件を超えて、なお2009年度には4万4,210件で過去最多を更新したというふうに挙げられておりました。武雄市は子育てのしやすい環境をとということでいろいろと考えていただいておりますので、こういう人たちが、こういう子どもたちがふえないように、たくさんきちっとした対策が練られていると思います。本当にこういう子どもたち、お母さんたち、保護者を救うために、武雄市としてはどういう対策を練っておられるか、お聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

まず、市に虐待の通報があった場合ですけれども、これは24時間以内に子どもの安全確認をするようにしております。市単独での対応が困難なとき、こういう場合は、県の児童相談所や警察と連携しながら現在対応をとっているところでございます。

また、連携といたしましてですが、武雄市要保護児童対策協議会というのがございます。こちらの協議会には、県の機関、それから、警察、民生委員さん、医師会の方、そして、学校、保育所、幼稚園、弁護士会、さまざまな機関の代表の方が一堂に会しまして、武雄市の現状等を話し合う機会を持っております。

また、実務者レベルということで、実務者会議というのも年に4回ですけれども開催をしているところでございます。いろんなケースがあった場合に、そのケースごとではございますが、ケース会議というのは、そういう問題が起こったたびに、年間これはその都度都度開催をしているところでございます。これは本当に直接かかわっている方、その方たちが集まって協議をしているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

1つだけ補完をしたいと思います。

武雄市のそういう児童虐待に対する対策の大きな特色としてこども部があるんですね。ですので、教育委員会、これは学校の中でいろんなことがあったときは、それは教育委員会ですけれども、これは私も経験がありますけれども、学校の外、例えば家庭とか地域とかでそういったことがあったときというのは、こども部にも来ます。私のところにも来ますけれども、そういう意味で、ウイングが広がっているということからして、今のところ、それが完全かどうかというのはまだどうかなという部分もあるんですけど、私自身は非常にこれが

うまくいっているのかなというふうに思っています。

やっぱりお母さんたちが、あるいはお子さんたちがそういうふうどこに相談すればいいんだろうといったときに、相談の窓口はこの場合は広いほうがいいのかなというふうにも思っていますので、さらに教育委員会とも連携を深めながら、あるいは各団体とも密接にいろんな意見交換をしながら安全・安心のまちづくりを進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

私としては、本当に武雄市はこども部もあり、いろんな支援サポートがたくさん用意されていると思います。そのときに、やっぱりこういう悩んでいる、ここまでこういう事態に、虐待しなければならない、そこになる前に何とか、やはりいろんな支援事業がありますので、何かしらそこにお母さんたちがきっかけづくりというか、そういう形にならないと意味がないと思うんですね。だから、ここまで来るお母さんたちはプロのカウンセラーとか、だれでもが子育てしてわかると思うんですが、本当にいらいらして、自分が風邪だったり病気だったりするときは自分の感情で子育て中はいらいらして子どもを殴ったり、虐待的な言葉を言ったりとか、いろいろ経験があると思うんですね。それを超して、やっぱりそれは病気として、そこに至る前に何か救いの手を差し伸べてあげなければならないと思うんです。それが今なかなか人のつながりが薄いところとか、御近所づき合いとかいろんなところでそこが見えなくなった。そして、人のことに無関心な時代になってきたからこそ本当に力を入れているかといけないと思うんです。そういうふうにして対策がとれていると思うんですが、そういうふうな悩んでいるお母さんとか、ここまで来たお母さんを武雄市はどういう形でサポートする、そして、発見しにくいところをどうかしてそこにチャンスを結びつける努力をされているところをお聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

親の方への支援につきましては、保健師とか子育て総合支援センター事業の紹介などケースによって支援をしておりますけれども、また、さっきおっしゃっていただいているように、早期発見というのが最も大事なことだろうというふうに私どもも考えております。そういうことで、家庭児童相談員がこども部の支援課におりますけれども、この相談員が学校訪問——これは学校ですけれども、学校、それから、主任児童員さんとの連携を図っておって、地域におきましては、民生委員、児童委員の方、この方々の見守りなどを御協力いただいているところです。

いずれにいたしましても、虐待につきましては家の中で起こるケースというのが多いのではないかというふうには思っております。そういうことで、外からは見えにくいということがございますので、これは一般の方にもお願いですけれども、虐待かなとか、何かおかしいと思われたら、ぜひ子ども部支援課のほうに通報をお願いいたしたいと思っております。これにつきましては、支援課、それから、うちだけでは対応がちょっと不十分な場合は県の児相なり警察とも連携をしながら対応をしてまいりたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に子どもたちがこれ以上傷ついたり痛んだりしないように、そして、親として、母親として心落ちついて安定した環境で子育てができるようなサポートが必要だと思います。そして、周りの人は、やはりそういう方、親御さんとかを見かけたら、何らかの方法で、世話焼きでもいいと思います、一言声を掛けてあげたり、こういうのがあるよって、武雄市にはいろんな支援がそろっているよとか、そういう形で、みんながやはり社会のすべての子どもは宝だと思って、自分の子どものことと思ってサポートするような子育てというか、そういう武雄の子育て環境になっていくようお願いしたいと思います。それは、武雄ではこういう事例になってでもうまくチャンスを、子育ての悩みとか解決するような体制がとれているというふうに私は思っております。

では、2番目ですが、重複してしましますが、今のは児童虐待という点からお尋ねしたんですね。今回、子育てへの支援のあり方ということで、その支援のあり方は、これだけたくさん行動計画があって、今118準備されていて、4つはまだ今準備中という形で、いろんな支援事業が行われております。しかし、現状としては、これは少子化対策とかも含めて、本当にいい子育て環境になるよということ立っています。そして、これが既に5年間の前期計画が終わって、これが22年からまた後期の計画で始まっているんですが、なかなかよくなるといけないのが、やはり少子化もとめることなく、平成18年は子どもたちの出生数が493人、武雄市ですね。19年は479人、そして、平成20年度は447人と、やっぱり子どもを産みたい、育てたいというふうにならないといけないんですが、なかなか難しいようです。

これだけの支援があるんですが、武雄市の市長の考えですが、本当に一生懸命やっただいております。それではまた、今からですね、この4年間も含めてですが、こういう結果を見て今からどこに力を入れていったらいいのか、武雄市の子育て支援の方向性といいますか、そういうところの市長の考えを聞かせていただきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答えいたします。

大きく3つあります。

1つは、これは私、また言うとも怒られるかもしれませんが、住民訴訟を受けておりました、財源が本当逼迫する中に、今度山口等議員から御質問がありましたけれども、今の市民病院の跡地に、機能として子育て総合支援センターをぜひ入れたいと思っているんですね。そこにはすごい天井が高いところがありますので、今までできなかった室内遊具を初めとして、3世代交流になるスペースが十分にあります。そこにまずやりたいと、まず拠点を。北方は北方で子育て総合支援センターがありますけれども、あそこがともすれば乳幼児に近いところ、これは上野議員からも御指摘がありますけれども、乳幼児の親御さん、それとの交流の場になっていきますけど、ここはもう少し年齢を上げて、そういうふうな役割分担をしながら、そこを拠点にするのが1つ。

2つ目が、これを拠点として、やはり公民館がかぎだと思えるんですね。ですので、各町各区の公民館、これは自治公民館も含めてであるんですけれども、そこを拠点として、こういう公民館というのは準拠点となるようにするというので、これは山口裕子議員からも再三御指摘がありますので、そういう視点を持って子育て総合支援というのに取り組みたいというのが2点目です。

それと、3点目なんですけれども、ただ単に機能、拠点だけつくっても、やっぱりこれはうまく動かないという観点からして、ぜひこれ、多くの方々がごらんになられていますけれども、そういう機能を活用するというのと、それと、これは自分たちのものだということ、ぜひ、特にこれはお母さん方になろうかと思うんですけれども、やっぱり自分たちのものだということ、我々とそういう意味での協働ですよ、同じ目線での協働をぜひ進めていきたいというふうに思っております。

おかげさまで、この4年間でそういう自発的な話というのはよく聞くようになりました。ですので、今度それを夢を形にすると。私の2期目で、皆さんたちもこれ一緒、4年ですので、その時点で夢を形にすることが我々政治家に与えられた役割であろうということを思っております。幸いにして、この件に関して言うと、教育委員会もこども部も、一部くらし部にもなりますけれども、非常に前向きな姿勢を持っておりますので、それを合わせて、子育てをするんだったら武雄市というように持っていきたいというふうに思っております。

それと、最後、これ加えてでありますけれども、やはり乳幼児の医療の無料化については、それは財源が確保できた時点で積極的に行おうと思っています。インフルエンザもそうなんですけれども、やはり親御さんたちの所得が減る中で、でも、やっぱり子育てというのは大事にしたいという気持ちは十分に伝わってまいりますので、子育て支援、福祉の中でも、やはりきのう山口昌宏議員からもありましたように、老老介護の部分も含めて、福祉の部分で

それと並ぶように子育て支援ということで重点的に財源を振り向けてまいりたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に今回、保育士の方とか子育て終わった方、今子育てをしている方、先輩の60歳、70歳の方とかに子育てはどんなふうに支援したらいいでしょうかねというふうに聞きますと、本当にいろいろな意見が出てきます。余りにもこんなにし過ぎるから、親が自分の責任がないんじゃないかとかですね。で、一生懸命今を育てながらしている人にとっては、大変社会状況が厳しくていろいろな悩みがたくさん出てきて、子育てが一番難しいとか、私たちもこんなにたくさん支援がなかったけど一生懸命やってきたよねって、本当にここにこれがいいよとか、そういう答えがなかなか出ませんでした。

しかし、私もよく考えるんですが、きのう松尾初秋議員が男女共同参画というところで、女性が出たら出不足金を払わないといけないというのは、出があるという形でそれはいい意見だと思います。女性が本当に重労働に遭わないでいいように、自分だったらこれはいい制度じゃないかというふうに、多分そういう意見だったと思うんですね。何かそういうので女性が子育ての環境から守られたら、出産して本当に大変です。出産後体が大変なときに、生活が厳しいから1歳もならないうちに子どもを保育園に預けて仕事に行かないといけないとか、私の主張としては、武雄市の子育て環境というのは、できる限り生まれてから3歳ぐらいまでは本当にしっかりとした家庭環境の中で子どもが安心して育てられる環境になったらいいなという形で、私は逆に親の介護をしたり夫1人の給料で子育てを一生懸命している人たちに何らかの支援金とか、奨励とか、そういうのがあれば、逆に難しい中、厳しい中、体も疲れて本当に産後の大変な中とか育児の一番大変な中に仕事に出ないで、ゆっくりと子育て環境が守られるんじゃないかなというふうに私は思います。

今、本当に武雄市の――これは武雄市の状況ですが、平成17年度から過去5年間に婚姻件数が約240件です。この中に、この5年間で離婚件数は90件というふうになっています。ということは、やはりそれだけひとり親家庭というのも生まれてくるわけですね。だから、何らかの形、それと、今一番働き盛りの40歳、50歳の方たちがうつとかいろんな社会的な責任を負って自殺するという社会状況もあります。

そういう家庭環境の方が区役とかいろんなときに遭ったときに、日常仕事で一生懸命女性が一人で育てている場合に、一応、松尾初秋さんは今健在ですが、本当家庭環境がそう変わったときに、日曜日区の役にも協力して出ようかなと思ったときに、じゃあ女性が出たから3,000円とか4,000円とか、そういう出不足金があるというのは、今の社会状況を考えたとき

に、これもひとつみんなで考えていかないと、助け合ってこの社会をよりよいものにしていくというときに、高齢者が出る場合もあるわけですね。高齢者の方はもう出なくていいですよというふうになっているところもあるでしょうが、何とか区の役に立ちたいと思っておじいさんが出られると思います。働き盛りでそういう草払いとかなんとかは任せてというお母さんが出られるときもあるでしょう。そのときに差があるのは今の世の中ではおかしいんじゃないかというふうに私は思ったんです。

でも、逆にそういう縛りがあって、じゃあ区の役とかそういうのに出なくて、そのとき子育てに時間ができたから、ああよかったとか、そういう縛りというか、出不足金とかそういうのがあって女性が守られるという部分が世の中の社会の流れが少しでも是正されるならば、私はそういうのもあっていいんじゃないかという形で、よく家で福祉センターとか入りたくないという介護度の高い人を家で見ている人とか、育児はやっぱ3歳までとか、しつけのときぐらいまでは自分で子育ての責任と思ってやろうと頑張っている人たち、逆にそういうところに支援金というのも言えるんじゃないかと思って、私はたびたび男女共同参画のところでも出させていただきますが、今の環境として、私は子育て支援をみんなで、これだけ世の中が変わっていったということを含めて考えなければならぬんじゃないかと思うんですが、そういうところで、市長の見解を聞かせていただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的な方向性は山口裕子議員と同じであります。だから、樋渡市政としてなすべきことというのは、やはり所得の問題というのはあると思うんですよね。やはり御主人さんがなかなか1人の給料では無理なので、奥さんがパートであるとかいろんなどころに出ていかざるを得ないということがありますので、我々とする、いかにして雇用者の所得をふやすような政策をしなきゃいけないということは考えております。それが、これもいろいろ批判がありましたけれども、病院の民間移譲でやっとな医療を中心としたまちづくりになって、きのうも申し上げましたけれども、今までの雇用というのが原則100人公務員だったわけですよ。これが非公務員で300人までなっているということからしても、これをさらに500人とかというふうになると、そこにさらに所得が上がっていくということになれば、武雄はそういうふうにして、医療だけじゃないんですけれども、雇用を確保して、あわせて所得も確保できるということ。

それと、やはりもう1つが、先ほど山口裕子議員の御指摘でなるほどなと思ったんですけれども、基本的にはお母さんが一緒にいたほうがいいと思うんですよね、特に3歳まではね。ですが、そうならない環境があるので、先ほどありましたように、例えば、出ていくお金をなるべく我々のほうで減らすということ、今度追加で出させてもらいますけれども、これは

貝原先生が今主導してされておりますけれども、インフルエンザの予防のワクチンに一定補助をするとか、なるべく本来親が出すことになっていたものを我々のほうできちんとそれは手当てをするということについても、それは子育て支援につながっていくと思うんですね。ですので、そういういろんな見方をして、それが単に一つの対策ではなくて子育てにつながっていくんだという認識を我々行政のほうでもきちんとして、そういう政策を打っていきたいと思っております。

あわせて、我々はどうしても1つの見方しかできない場合がありますので、議会が民意のかがみになると思います。きょう西日本新聞の九州面で議会のあり方が大きく出ておりましたけれども、やはり民意のかがみとして、いろんな一般質問等で、いや、これよりもこっちのほうがいいじゃないかということをやむ私たちにほうに大所高所から教えていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

きのう男女共同参画で意見してもらったのも本当ありがたいです。ほかの男性議員さんたちも、自分はこう思うとか、そういう意見をどんどん男性のほうもいろんな参画をされて、ライフスタイル、皆本当にこの子育て支援もそれぞれのニーズに合った子育て支援というふうになっているんですね。だから、それを優先すると違う方向に行くんじゃないとか、これを見ている、本当にそれがいい形の子育て支援になっているんだろうかと思うようなこともあります。

私はやはり親として、親が責任を持って子どもを育てるという基本、それに対してのサポートはたくさんあっていいと思うんですね。そこの責任というところが今の時代に何かしら、行政がしてくれんやったりとか、これが足りんとかあれが足りんとかいう要望ばかりになっていて、そこの親子のきずなとか、本当に地域のきずなとか、そういうところが今薄れていった結果が、子どもたちが苦しんでいた親御さんたちが苦しんでいた、本当に高校生、中学生ぐらいで非行に走ったりとか、そういう社会状況が後を絶たないんじゃないかというふうに私は思っています。

女性は本当はゆっくり子育てしたかった人もたくさんいると思うんですね。でも、このような社会状況になったときに、女性も何とかお父さんがリストラに遭ったり会社の状況が悪くなったというときにお給料が入らなかつたら、何とかして女性も働いて頑張ろうという形で、じゃあ同じように働いて帰ってきたときに、子どものこととか家事、食事の用意とか、そういうのを男性も一緒になってパートナーとなつてすれば家庭がうまくいくんじゃないかという形で男女共同参画もいろいろと考えられていると思うんですね。だから、ぜひとも議員さんたちも、きのうのように男女共同参画に対してでも子育て支援にしても、女性が余り

にも男女共同参画と言って外に出るようになったから子どもがこういうふうに育たんようになったとかいう、本当に私にぶつける方もいらっしゃいます。それは本当にそうなのでしょう。——なんですね。だから、地域がこれだけ今変わってきたということを、みんなで子どものこと、その環境のことを考えていかないといけない時期だと思います。

私にとっては、学童の利用料も本当に自分で一生懸命そういうライフスタイルを選んで夫の収入で子どもを小学3年生ぐらいまでは迎え入れようとして奥さんがパートに出るのをやめてやっている人は、学童のおかげで女性も外で収入が得られるようになったんだったら、やはり全く無料というのもおかしいんじゃないかという考えが出てきてあれが決まりましたが、決まったときに、本当にどうでもよかった人が、みんなただだから預けていた人がきれいに精査されたように減ったと思うんですね。だから、完全に子育ての中で無償というところは本当にいいのだろうかというところも考えさせられる一つだと思います。

やはり、子どもは本当に親の責任として育てるという基本を親が持つ、そして、親業として大変なところ、子育てが最初から楽しいわけなかったし、自分もきつかったんですね。それを経験することによって、今、本当こんな喜びがあった、こんなことがあったねというふうに言われると思うんです。私だって一生を終わってみたいとわからないし、自分の子が一生終わってみたいと子育てがよかったとか悪かったもわからないんですが、今の時代の流れとして、親としての責任というところ、親子のきずなというところをもっと力を入れるような支援サポートが必要だと思いますが、市長の見解をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりいろんな支援策があると思うんですね。今我々として考えなきゃいけないのは、共有ですね。だから、今までは、例えば私もそうだったですけど、3世代の中で育てられてきたというのが非常によかった。うちは親も共働きでしたので、じいちゃんばあちゃんから育てられたようなもんなんですよ。でも、今若いお父さんお母さんに話すと、どうやって育てたらいいかわからないということについて、言葉はちょっと冷たくなるかもしれませんが、そういう子育ての情報の共有ですね。あと、そういう先輩の親御さんたちと一緒に触れ合う場とか、あるいは3世代一緒に集う場とか、そういうような支援を、単に経済的な支援だけでなく、それが今の時代に一番求められているんじゃないかなというように思っています。

そして、よく考えてみたときに、ちょっと長くなりますけれども、どこで育ったのかなと思ったときに、私、吉川議員もいますけど、お寺で育てられました。それは善福寺だったり円照寺だったりしますけれども、よく帰るときにお寺で、そこに大人の人が来たりとか、夏休みは座禅とか、よくたたかれましたけど、だから、そういうふうにお寺の持つ役割という

のがもう一回見直されてしかるべきだと。これは、東京都の例えば武蔵野市とか国分寺市とかというのは、もうそういうふうになってきているんですね、お寺の持つ機能というのがまた昔に返りましょうと。ですので、そういう遊ぶ場とか触れ合いの場とか多世代交流とかそういうところにシフトしてきて、現に今武雄市内でもお寺をされておる、経営も大変だと思います。ですが、そういうふう動き出しているところもあるというふう聞いていますので、よく我々としてもそういうのを勉強して、また広げていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にいろいろな価値観の中、核家族化が進んだということも大きかったと思うんですが、実際、この行動計画をとられるときに、アンケートをされて計画を立ててあるんですね。今市長から述べてもらいましたように、このアンケートの中に、子育て中の方が夫婦と子どもで暮らして近くに祖父母が住んでいるという理想の家庭像、これを望んでおられるというのが62.9%となっているんですね。だから、同居は嫌だけど祖父母が近くに住んでいて、何らかで手伝ってほしいというのがこの結果じゃないかというふうに思います。実際、祖父母とか夫婦、子どもが同居しているという人が28.4%です。だから、実際同居がうまくいかないし、本当高齢者の方も若っかもんがさせんもんねとか、嫌がられるもんねとかいう、こういう意見も聞きますが、もうそう言っている時代じゃないと思うんですね。だから、もう直接親子関係でうまくいかないときは、地域の長老たちとか、先人たちが本当に十分すべての子どもは自分の子としてお寺なりなんなり、そういう形で支援していただくのが今からの形かなというふうに私も思っています。だから、かしの実サークルとかもそういう形で随分よその子どもたちという形だけど、おじいちゃん、おばあちゃんたちとか、そういう先輩方がサークルの中で子どもを見てくれているとか、そういう形が成り立っているんだと思います。私も同居していますので、もう本当に価値観がこれだけ違う社会になりましたので、難しいところもあります。それから、武雄市が支援としてこういうところを取り持つ形で世代間交流とかいろんな老人、大学の方たちが学校に訪れたりとかいう形で支援はなされておると思います。もう事細かく一人一人のニーズに対応するって本当にきのう、おとといと市長が財源不足を言われておりますが、これはみんなの力を何とかここで合わせればうまくいく子育て支援でもあるんじゃないかというふうに思いますし、そのような形をいま一度、親子のきずなというところを取り戻していかないといけない時期でもあると思います。

1つ、この事業のアンケートの中で、やはり日曜とか祝日も保育サービスを受けたいという方が30%を占めています。その意味は、リフレッシュする目的で自分が休みのときは、そのときも見てほしいというアンケートの結果が出ているんですが、これをやっぱり子ども

という時間をリフレッシュ時間と言えるような、そういうふうな体制に持っていけないといけないうんじゃないかというふうに私は思います。仕事を終えてたった一、二時間の子どもと接する時間は、本当に仕事から帰ってきたら、女性も男性もそうだと思うんですが、でも、そこに子どもがいることによって、くつろげたとか、リフレッシュできたという形になっていけるのが理想かなというふうに私は思っています。なので、やはりきずなというところは、このときだけは親が駆けつけてくれるとか、このときだけはいつも守られていたというようなきずなづくりができるような支援サポートが必要じゃないかというふうに思います。だから、せめて子どもの病気のときは親が見てあげられる、親が休みをとってあげられるような企業とか会社ですね、そういう理解が必要だと思います。で、子育てが終わったら復帰できるような会社の理解とか、今は本当にこんな厳しくなった社会の中では大変かもしれませんが、そういう、こんなときだけは親がいつも来てくれるというような社会体制を望んでいるんですが、市長はそういうところの見解をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに私が小学校のときは昭和50年代だったんですけど、社会にやっぱり余裕がありましたよね。それは言い方を変えれば無理とか無駄とかあったと思うんですけど、そういう無理とか無駄が余裕につながっていて、同じようなことを経験したこともありますので、やはり先ほど申し上げたように、今社会全体がぎすぎすなっているというのもあるんですけども、私はやっぱり1つは所得だと思います。家庭内所得がきちんとあれば、それは働きに出なくても済むし、そういうふうになると。それはすなわち雇用にもつながっていくと。雇用から所得が発生する場合がありますので、私は雇用ということをもう少し今まで以上に、この4年間で市民病院の問題に足をずっととられていましたので、今度はやっぱり雇用ということに力をあらゆる政策の面を向けていくと、これがやはり質問で承っておりますけど、子育てとかいろんな経済活性とか、これは観光にもつながっていくんですけども、そういうふうに社会の昭和50年代のときのように——まあいろいろ問題はありましたけれども——余裕がまた生まれてくるんじゃないかなというふうに思っております。ですので、基本的な認識は山口裕子議員と全く同じであります。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にどれが正しくてどれが悪いとか、そういうことはないと思うんですが、いい子育ての環境になっていけばいいなと思います。それだけたくさんの方が心配をして、たくさん

おじいちゃん、おばあちゃんが自分の子ども、周りの子どもにかかわって支援していただけるのが一番じゃないかというふうに思います。子育てとかライフスタイルとかいろんな多様化の時代になって、一人一人に合わせたような支援というのも市のほうとしても大変な御苦労をされているし、これだけの行動計画を準備されるのは本当すごいなとは思いました。今育てている環境は逆に恵まれているんじゃないかなというふうに、これだけのサポートがあれば、どんどん子どももふえて安心してということにならないといけないんじゃないかなというふうにも思います。

4年間のうち、本当に市長も大変だったと思うんですが、子育てに関しては総合子どもセンターも準備していただきましたし、市役所にはキッズステーションもつくっていただきました。いろんな子育てをしながら、少子化の中、周りに子どもたちがいないというときに、どこかに集まったりして交流を深めたり元気にならないといけない環境の中に、とてもいいセンターをつくっていただいたと思うんですが、もう1つ、今回市長としては、ママズ・カフェを計画というか、予定をして上げられていると思うんですね。これも親御さんが子どもを連れてゆっくり外に出られるとか、一緒に食事に出たりとか、ほかのファミリーと一緒に集うことができるとか、そういう形の目的だと思うんですね。この計画に対してはどういう見解でしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ママズ・カフェにつきましては、みんなの政策集の中に入れていましたように、しかも図解をつけて入れたので、かなり力を入れてやっていきたいと思うんですね。まだ場所はこれから考えたいと思うんですけども、いずれにしても、二面考えているんです。1つは、お子さんを連れてくつろげる場所ですよ。そこでお母さんたちと同じ世代の方々が共有をするというスペースと、もう1つ、これは先行事例の浜松市がそうなんです、実際なかなか小さいお子さんを持たれている、特にお母さんが働く場がないというところで、そういうお子さんたちを連れて行って、そこを働く場にするということで、二面性を考えているんですね。すなわち子育ての交流の場というつながりと、もう1つ次元を異にしますけれども、そういう雇用確保の場ということを考えていますので、今場所等についても最終調整中です。なるべく集まっていたらいいところにしていきたいというように思っておりますので、もう少し時間を与えていただければありがたいというように思っています。

これ、本当にちゃんとスタートさせないと長続きしない可能性がありますので、よく多聞第一、いろんな皆さんの意見を聞いて、本当にこれが長続きするようにしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にママズ・カフェというのは女性たちの子育てをしながら自分の子どもが近いところに行って働ける場所の確保とか、そういう役割も持っているそうです。私としても、市長がここまで計画をしてあるんだったら、私はぜひともその中に、カフェの食べ物とかは本当に食育のことを考えられた、そこで食育指導ができるような食べ物がいいんじゃないかというふうに思うし、そこに子ども好きの年長者、若い人ばかりじゃなくて、年長者の人がいろいろなアドバイスができるようなママズ・カフェになったらいいんじゃないかというふうに思いますので、そういうことも含めて準備いただけたらいいかなと思っております。

それでは、子育て支援を終わりにして、次に行かせていただきます。

ちょっと子育て支援に力が入り過ぎましたので、安心・安全の地域づくりについて。1番目、道路整備です。もうこれで3回ほど私は上げさせていただいていると思いますが、やはり財源のことをこの2日間いろいろと聞いておりますので、申し述べにくいなと思うんですが、梅野有田線、一般県道の歩道ですね。本当歩道の確保をしていただきたい。一番危険じゃないか、皆さん市民の方がだれか1人死なればここはきれいにならんとばいとか、いろんなことを言われます。なかなかこの計画に至らないところが、そこに及ばないのが、平成12年度から大野のところの入り口なんです、あそこが土地の交渉でうまくいなくて、この事業が終わらないと次の今山を通るこの県道には移れませんということをもう何回も答弁させていただいておりますし、わかっております。だけど、本当にここは通学路です。そして、お年寄りと言うならば、病院に歩いていけるところなんです、自分も歩いてわかります。とても危険です。本当にそれと、梅野の入り口、それから、大野の入り口までが道が本当に拡張されてきれいになりましたから、大きなトラックがどんどん入ってきます。その真ん中がそういう状態でありますので、それは避けられません。何回となくいろいろな施策を経て、保護者が朝交通安全で立ったり、それと、交通指導員さんに言って警察のほうに建設会社にもう少しスピードを落としてもらおうようにとか、いろんな手だてもしました。これは本当財政難ということを2日間聞いておりますし、いろんな優先順位もあるということ聞いていますが、工事が交渉が折り合わないでとまったのを、ここが終わらないと次に進めませんじゃ、もう何年もこのような状態だと思っんですね。

私がもう20年前Uターンして帰ってきたときからこの要望は常々上がっていたと思うんです。だから、ぜひとも制度を変えるなりなんなり、そこを終わらないと次に行けないじゃなくて、ぜひとも最優先として、もう区長さんもおっしゃっております。道路の拡張は要らん、とにかく片方でいいから歩道を何とかお願いしてもらえんろうかという形です。4メートル幅の歩道とかもうぴしゃりできたところもありますが、私たちはそう言っているんじや

ないです。本当に子どもの通学のとくにせめて確保してあげないと危ない状態ですので、もう一度ここで上げさせていただきます。答弁お願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

山口裕子議員から、しかも、大野区の区長さん初めとして多くの皆さん方からこの意見は寄せられているんですね。一応ルールはルールとして、その順番というか、こちらができないとこっちができないというのはあるんですが、ただ、これはルールよりやっぱり命だと思うんですよ。私も歩いていて飛ばされそうになりました。ということは、私が飛ばされそうになるということは、子どもたちはもっとその100倍ぐらい危険な目に遭っていると思うんですよね。したがって、私とすれば、できない理由よりできる理由、ここの部分は市の財政負担をふやしてそれがオーケーであれば、県に私から知事に言いますよ。知事はきっとわかってくれると思います。ですので、やっぱりそういう私自身も自分の経験に照らし合わせてみて、そういうふうに行動していきたいなというように思っております。また近々別の件で知事と会いますので、しっかり言います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に執行部側も努力していただいていると思います。何とかという気持ちを制度だからという形で延々と待つことがないように、何とか制度を変えていくような形で、危険箇所はそこを飛ばしてでも次に行けるような形で準備していただけたらありがたいと思います。

その県道のことで言えるんですが、きのうも道路の県道、市道の維持管理費とかいろんな形で意見が出ておりました。そこはそれだけ危険なところですが、でも、そこが田んぼに面していますので、その草払いですね、本当に通学路だから何とか少しでも広くとってあげたいので、草払いは本当にその田んぼをしている方、周りの方が常々余り伸びないうちに刈ったださっていると思うんですね。でも、そのような通行のところのすぐ面したところなので、草払いをしていて大変危険です。本当にいつ車に当たろうかなというぐらいに危険なところを草払いをしないとイケません。

こういう市道、県道の維持管理というところで問題が上がっておりましたが、危険箇所はやはり年に2回とかじゃなくて、そういうところはもっと県が完全にさせていただくような形にはならないのか、お聞きしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

今議員御指摘の道路の維持、草刈りの件でございますけれども、県道の草刈りにつきましては、先日山口昌宏議員のほうからも御質問があつておりましたけれども、県のほうにつきましては年に2回除草をされておるようでございます。市といたしましても、先日から申し上げていますとおり管理区間がないことで、現在緊急雇用基金事業を活用いたしまして草刈り等をお願いしておりますけれども、要望箇所が多くて十分に対応し切れていないのが実情でございます。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に2日間そういう話はよくわかるんですが、専決処分ボランティアで公園かなんか草払いしていて、その石が車に当たって30万か幾らという形のお金が払われたというふうに載ってましたよね。そういうふうにボランティアとか、本当に田んぼの人が厚意でしていたのが事故に遭った場合はどうなるのかなというふうにも危険性とかを考えると、今まではそれでよかったです。このような状況が変わってきた場合は、やはり危険箇所なりともやっていただきたいなと思うのは、ここが業者に頼まれてやっているときは、ちゃんと片側通行をして人を3人体制ぐらいにして草払いをされています。そんなふうには危ないところですね。でも、その田んぼの持ち主の人が厚意でするときには、自分の身の危険をさらしながらそこでやらないといけないという状態になっています。これじゃあ本当に今お米の価格も下がって農業の後継者がいないというときに、もうたぐさんの畑、田んぼは、こういう形で市道、県道とかいろんな土手とかまでセットでしないといけないような状況になっているんですね。これは本当に後継者がこういう形で維持管理とかが全部負わないといけないような状態になってくると、農業の後継者と考えていったときに、これが本当にうまく進んでいくという状態にもならないんじゃないかという一つの原因と私は思いますが、市長、どうお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常にまた心苦しい言い方になるんですけども、やはり住民訴訟を受けていて市民負担にも発生するような財源の問題というのはあるんですよ。

それと、もう1つが、やはりこれも甚だ言いにくいんですけども、やはり市だけだと、とても総延長距離だとすると手が回らない。うちも職員を3割ぐらい減らしているんですよ。それは市民負担にならないようにすると。本来ならば、職員が出張って行ってやるというのは一つのやり方だと思うんですけども、3割も減らしていると、それで市民負担をなるべく

くかからないようにしているという観点からすると、保険の問題等はちゃんと考えますので、ぜひ地区の皆さんに、やはり我々としては頭を下げ、腰を折って協力を要請すべきときじゃないかということは思っています。これは偽らざる心境です。ですので、それが私はある意味広い意味での公助、共助の共助に当たるのではないのかなというふうに切羽詰まって思っています。

いずれにしても、やっぱり道路というのは安全が第一で、私も幾つかきのうも見て回りましたけれども、ちょっとここは危なかよねというところも散見されますので、我々が本当に危ないと思ったところはきちんと対応したいと思います。市道、県道はありますけれども、したいと思っていますので、ぜひそういう意味での地域力ということを頭を下げをお願いをしなきゃいけないのかなというふうに認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にこのように社会状況も変わってきておりますし、いろんな制度も見直していくところは見直して改善されていくことを望んでおります。

次に移らせていただきますが、安心・安全の地域づくりの中で、みんなのバスについてお尋ねします。

本当にありがたいことに、今山を最初スタートさせていただきまして、開通式をさせていただきました。これがスタートする前から、やはりこういうバスは望まれていましたが、スタートしてからも皆さんが待ち望んでいたということがよくわかりました。これは実験運行であります、ぜひともこれが必要な地区はずっとこれからも続けていかれるような事業になればいいなというふうに私は望んでおります。

対象がやはり高齢者の方という形の雰囲気ではありますが、障がいを持っている方とか、あと、本当言えば高校生、子育て支援につながりますが、朝の電車のところまでの送り迎えというのが山内町は仕事に行くお父さん、お母さんたちの仕事になっています。そんなのまで解消できたら、私はみんなのバスが役立つということはいいいんじゃないかというふうに思います。だから、それは今後実験運行をしてどのような形になるかわかりませんが、そういう「みんな」という、そこが集いの場、きずなができるような、本当にそういうところまで行ったみんなのバスという形に、市長もそういう支え方をしていただけたらありがたいと思っておりますが、どんなふうにお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは山口昌宏議員が以前の議会で明らかにされましたけれども、武雄市の施策は、私が

かかわってきて議会に広い範囲で議決をいただいたのは680あると。私もその中でみんなのバスが最も——そこは私ですよ——喜ばれているというのは、この前の今山の開通式、あるいは追分での開通式、午後におくれて参りましたけれども、本当にそれは骨身に染みて思いました。おばあちゃんから抱きつかれました。「あなたば離さん」って言われました。もう私、本当にこれは政治家冥利に尽きたですよ。もう本当に。ですので、これは単に私の喜びじゃなくて、これをみんなの喜びとして分かち合いたいというように思っておりますので、先ほど山口裕子議員からありましたように、ある意味、これは若木の牟田議長からも出ていますけれども、スクールバスの一部になるとか、あるいは、これは杉原前議長の船ノ原からも出ていますけれども、例えば、物すごい遠いんですよ、分校まで歩いていくのも。そこに一部使うとか、そういうふうな広がりというのは当然あるだろうなと思っておりますので、ぜひ地区で、これこそが地域主権だと思うんです。地区で決めていただいて、ルールにのっとってやっていただければありがたいと思っております。

そして——宮本議員、よろしいでしょうか。私答弁中ですけど。よろしいでしょうか、宮本議員。

それと、もう1つが、そういうふうに今考えているのは、実際運行してこの2日間か3日間でいろんな課題が出てきました。運転手さんがこの方は乗せていいのかなとかっていうのが出てきて、乗れなかった方から、ああ、乗せられんやっただというお話も来ているんですね。ですので、我々とすれば、今詰めているのは、幸せの黄色いうちわ——夏はうちわ——で、何かこう目印になるようにしないと、多分バスも時速40キロぐらいで走っていると、なかなかわからないと思うんですよ。ですので、そういうことができるように、判別ができるように、そういう該当者の方に限って幸せの黄色いうちわかですね、それをお配りすることも今考えていますので、そういう意見をぜひ実験運行の中でいろいろまた教えていただければありがたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に今実験運行ですので、私のほうにもいろいろな意見が届いております。今山のすぐ境界線の隣の梅野のおばあちゃんから、私も今山の友達の何とかさんと駅まで一緒に出て、私も乗られるやろうかって梅野の方から相談されたりしています。あとは、ちょうど通過していくところ、大野を通っていきますので、大野の方も本当に駅まで出たり、Aコープまで出たりというときに、隣の区ではありますが、本当にあいていれば乗せてあげられたらいいなという形も出てきておりますので、いろいろな改善策を盛り込んで、ますますすばらしいみんなのバスになっていくように望んでおります。

それでは、最後になります。教育施設についてお尋ねいたします。

本当に子育て支援というところから少子・高齢化問題とかがすべてに入っておりますが、少子化に対応した学校施設のあり方というところで、分校の問題——問題という問題ではないんですが、いろんな声が届けられております。

入学式とかに来賓として参加したり、民生委員さんとかいろんな方が参加されるときに、入学式を見ていて、本当に分校がよかとやろうとか、いろんな話をされますので、そうですね、旧山内町のとき10年ぐらい前から次々とできましたが、3校新しいきれいな分校があります。分校とは言いましても、場所としても意外と開けたところにあります。これ、少子化になってきて、今、矢筈分校が19年に閉校しましたが、まだ廃校じゃないですよ、閉校という形ですかね。（発言する者あり）廃校ですか。

私はこの分校問題は山内の場合は廃校とか閉校とかじゃなくて、これをさらに、これにかかわっている人たちが本当に本校がいい、今さっき言うようなみんなのバスを使って本校に行きたいんだったらそのほうがいいんじゃないとか、たびたびタクシーで行事のたびに本校に連れてきたりする先生方の御苦労とか、あと、ことしは犬走分校が10人を切って、1、2年生を合わせて9人です。船ノ原分校が1年生が2人、2年生が5人で7人です。立野川内分校が3人と3人で6人です。

やはり学習効果が上がるとか、いろんな一番子どもたちとか家庭、分校というところから考えたら、それを優先にして考えないといけないと思うんですが、本当に今、ひょっとしたらみんなのバスとかをして本校に行ったほうが、すごく先生たちも子どもたちも学習効果とかいろんな面でメリットがあるんじゃないとか、いろんな意見が私に届いておりますので、そういう面から見て、教育長のお考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、分校9名とか7名、6名というような状況がございます。児童数が少なくなっても存続した方がいいかどうかというのは、それぞれの校区でいろんな御意見があることも承知をいたしております。

現在は、8名以下は複式になるわけです。これを一番憂慮しているところでございます。現在、立野川内が6名、船ノ原が7名ということで、形としては複式でございます。ただ、分校が2つあります関係で、以前から分校の応援の加配の先生がおられますので、一緒にしないほうがいいのかと思われる大事な国語とか算数とかの勉強は1、2年分けて指導するというような形をとっております。

今新しく文部科学省が定数の改善計画というのを新聞等でも出されておりますが、その中に複式学級を8人から6人に減らそうという計画が出ております。もしこうなりますと、複式の心配も薄れるかなというふうに思っております。

親が責任を持って育てるという冒頭からの議員のお考えが非常に大事だということは、私も全く同感なわけであります。特に九つまでの「つ」のつく時代の大事さというのがいろんな機会に言われるわけですが、本校に行った場合には三十数人の学級、もう40人近く、これもまた35人以下の学級になる可能性がありますが、そういう中で育つのがいいのか、あるいは人数は少ないけれども、学習習慣、基本的な生活習慣をみっちり仕込んでもらったほうがいいのか、意見の分かれるのはそのあたりかなというふうに思います。矢筈分校のときもそうでしたけれども、保護者の方とか地元の方とかの意見を聞きつつ、今後も考えていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

これは私がいいとか悪いとかいう問題では全くありません。本当にこれは今の社会の流れとかお母さんたちの要望、子どもたちのことを考えて、これが早く集団というか、中に入れてあげたほうがいいとかいろんな意見があると思うんですね。だから、ここは本当にこの学校施設、すばらしい施設です、3つの分校は。だから、さらに社会教育等の場所としてとか、いろんな有効活用も含めていい施設ではないかというふうに思います。

もし分校として考えられない場合は、今子どもたちの問題で不登校さんがふえていて、教室に入れない、保健室だったらいいとか、いろんな子どもさんがふえておられます。あと、自閉症、多動症の方、アスペルガーの方とか、それに応じて先生たちも補助をつけられて学校教育をされていますよね。で、武雄市にはありがたいことにスクラムという支援学級があります。山内の方とか遠いところからもそこにいらっしゃっているわけですが、もし使い方として有効にそういう使い方もできるなと思うと、やはり分校という形がそういう1つの学校施設としてもすばらしいんじゃないかというふうに、これは私の提案を1つ言わせていただきたいと思います。

あと、親の交流とかが本当に小さい単位になってきておりますので、そういうことを考えたら、地区の方にもっと有効に学校を開放していただけると、親の交流の場所とか親育ちの場として、あと、世代間交流の場として、もっと分校がいい形に活用されて、また、地区の人とか市民の人から愛される、利用できるような場になるんじゃないかということで、ここで提案させていただいておりますが、一応これは教育長にお尋ねしておりますが、こういう考えに対して市長はどういう見解がありますか。お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

議員の御指摘のとおり、やはり地域で分校というのがあって、せつかくの私は財産だと思

うんですよ。ですので、それがやっぱり皆さんに喜んでいただくようないろんな手だてが必要だというふうに思っていますし、私がああいいなと思ったのは、鳥海のアーティストの草場さん、あの方が夢の何とか学校って言って船ノ原分校でされたときに、あれは実は全国から集まったんですよ。元宝塚の方であるとか、いろんな教育者が集まって、そのとき杉原前議長もお見えになりましたけれども、そういうことで全国から来たときに、そういうふうな分校だからこそその可能性というのがあるなというのは本当ほとほと実感をしましたので、その特性を生かして、地区だけじゃなくて全国に発信できるような仕掛けというのをもっと勉強してやっていきたいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

武雄市のすばらしい財産として、本当にいい形ですね、有効活用というところ、さらにいい施設になるような分校であつたらいいなということで提案させていただきました。

次に、最後になります。教育施設についての中の2番目ですが、今回、武雄中学校の改築とかいろんな形で学校改築の時期に来ておりますが、ことし山内中学校の改築に伴って設計費用が上がっております。ぜひとも環境問題のところでは、今後学校を改築される場合は、地球温暖化のこととかを考えて太陽光発電、そういうものも備えた学校というのはどうかというふうにもお尋ねしておりましたが、それに対して、いろんな今から新しくできる財産として、今から大きく、山内中学校も五十数年たっておりますので、今後20年先、30年先はどうなのかという、そういう形も盛り込んで計画がなされたらと思ってここで上げさせていただきます。

もちろんLEDのお話も上がっておりますので、今度新しくできる学校施設とかはすべてLEDが対応されると思いますが、やはりとてもあそこは高台にあって、畜産試験場がクラスの3階から外を眺めると本当にすばらしい景観ですね。畜産試験場が眺められて、勉強を余り聞かなくても横ばっかり見たくなるようなすごくいい環境にあります。だから、ぜひこれからはそういう環境、自然の素材で、学校も今はコンクリートで建っておりますが、自然の素材でぜひとも計画に入れていただきたいし、自然の光を取り入れるような施設に計画していただきたいなというふうに思います。

あとは、今子どもたち、小さいときからアレルギーだったりいろんなシックハウスですね、そういう病気とかを持った方もいらっしゃいますので、自然の素材というところのそういう対応も含めてもらわないといけないというふうに思っております。

あと、ここまで綿密には答えることはできないかもしれませんが、今、北中学校がありますが、やはり北中も1クラスぐらいになってすごく少子化が進んで、先はどうなるかという

のをよく市民の方が言われます。北中は武雄に行くと、山内に行くとみたいなことも聞かれますので、施設として今後やはり今から計画されるならば、そういうことも含めて設計していただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

山内中学校の設計につきましては、今議員言われましたように、発注をして、基本的な設計、配置計画と、もう1つは上の階の特別教室、これにつきましては、補強と大規模改造、この分を今年度やるということで考えています。そういう状況の中で、基本的な設計に当たりましては、PTAの皆さんとかを中心を考えながら建設検討委員会の中にも入っていただいて、いろいろな意見をいただきたいということで考えています。あと、今言われました温暖化防止のためのいろんな施策、こういうものについても、財政的なものは含めて検討をしていきたいし、なおかつエコ等についての改修の補助金とか、そういうものをできるだけ探してきて、普通の今までの校舎改築とか等にならないような財政の中で何とかやっていければということで考えていきたいというふうに思っています。

それから、北中の問題につきましては、今この時点でどうこう私のほうからは答えることができませんので、まことに申しわけありません。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私、北中何度も行っていますけど、本当にいい学校ですね。ほのぼのとして触れ合いがあって。やっぱりこの灯をせっかく先人の皆さんたちがずっと守り継いできたというのは、絶対これは続けさせる義務があると思うんですよ。私は学校というのは地域のよりどころ、中心、魂だと思っておりますので、私が市長である間は、北中は絶対存続させます。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

ぜひともそういう、存続とか存続しないとかは私は全然だったんですが、このように今社会が変わってきておりますから、後からああだった、こうだったと言って余計に予算がまたかかるようなことがないようにと思って私はここで上げさせていただいております。

あと、もう1つ、これから学校施設も変わってくると思うんですね。それと、やはり一般の方というか、地域に開放された学校とか、地域交流ができるようなこと、そういうふうな形になってくると思うので、一般の方が——山内町には図書館がありません。だから、そういう図書室とかが地域の方が交流できるような場になっているとか、研修室とか会議室とか、

そういう交流の場になるような施設にもあそこはすごく適しているんじゃないかなというふうにも私は思います。

これからは本当に地域全体で子どもたちのこともというか、学校は学校だけじゃなくて、今はもう本当そういう形になってきておりますが、先ほど北中のことも言われますように、やはり地域の人と一緒にになってかかわれるような学校になっていくべきだと思いますので、そのような施設が準備されるようなことをお願いしたいと思いますが、市長はそこら辺のところの御意見をお聞かせください。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり財源なんですね、いろんな話を聞いていると。もう本当にくどいようですけども、住民訴訟を受けて市民の負担になるってなったときに、別に僕は住民訴訟の中身の話をしているわけじゃありませんけれども、そういう中で、やりたいというのがありますけれども、ただ、樋渡市政の根幹とすれば、やっぱり今あるものを活用するというので、そういう機能を入れていきたいなというように思っておりますので、何かこの件で新たに箱物をつけて、それが結果的にランニングコスト、維持費で市民負担にならないようにはしてまいりたいというように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当に少しでも次世代にツケを残さないような形でいい武雄市になっていくことを望んでおります。武雄市は市長も頑張っていただいておりますので、市民にとっていろんなチャンスがあります。本当にすばらしいなというふうに思います。ほかの市町村にお住まいの方も、武雄はよかねというふうに言っていただいておりますので、皆さん市民が一致団結してさらに武雄市を盛り上げていくような形を私は望んでおります。

前段にぜひこれを、私は文化協会から頼まれたわけじゃないんですが、武雄は本当に文化会館を中心に芸術活動とかが盛んなところだと思っています。でも、聞くところには運営も厳しいというふうにも聞いておりますので、これはアウトリーチコンサートとあって、子どもたちの学校、分校を少人数で四重弦楽奏の大村の室内合奏団の方たちが今回っておられます。そして、夜には地域の公民館で演奏されております。私は初日、山内町の公民館に行かせていただきましたが、武雄市民は本当にぜひたくにこんなものを無料で味わわせていただいていたがたいなというふうに思いました。どうか自分で自分を癒したりとか、自分を元気にしたりって、武雄市はいろんなチャンスをつくっておりますので、ぜひともこういうのに参加されて、あしたの力というか、そういうのにされたらいかがかなと思って、ここで御紹

介させていただきました。

市長もごらんになりましたか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は土曜日行こうと思っているんですね。きのうの夜が若木町公民館で、これは議長も行っておられますけれども、非常に多くの皆さんたちが集まっていたということで、これツイッターに載っていましたが、若木公民館の主事が驚いていました。きょうは夜から武内町の公民館でありますので、これをごらんになっている武内町以外の方々でもぜひ行ってほしい。大村の室内合奏団と合唱団というのは非常に全国的にも有名なところですので、行っていただければありがたいというふうに思っております。土曜日には文化会館の小ホールでありますので、ちょっと時間は今すぐにはわかりませんが、それには私もぜひ参加をしたいと。これについては、またホームページやツイッターとかいろんなところでお知らせをしたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

4番山口裕子議員

○4番（山口裕子君）〔登壇〕

本当にいろんなチャンスが市民に与えられていると思いますので、これからますますみんなが力を合わせていい武雄市をつくっていきたいと思います。子育て支援とか、皆さんで取りかからないと女性だけとか親だけとかいう問題ではないと思いますので、ぜひとも皆さんで考えていい環境、子育てのできる子育てのしやすい元気のある武雄市を議会から発信できたらと思います。きょうはどうもありがとうございました。